

ネジからテコへ

鉄製になった印刷機には、新たな変化があらわれる。構造の変化である。スタンホープ以降高価なネジ式の加圧装置から離れ、より効率のよい機構を求めて、テコの原理を応用した新しい印刷機が次々と考案される。

25. コロンビアンプレス

Colombian press

製作：ジョージ・クライマー George Clymer

製作年：1835年(1813年頃考案)

製作国：イギリス

1,725×1,460×2,300

アメリカの象徴である鷲をのせた非常に派手なこの印刷機は、アメリカ人であるクライマーによって製作された。加圧にはネジを用いず、組み合わされたレバーがバーを引くことによって順に動く。テコの原理を応用し圧をかける仕組みである。軽い力で強圧を得ることに成功し、版面が大きな場合の印刷には、このコロンビアンプレスを用いられることが多かつた。



26. アルビオンプレス

Albion press

製作：リチャード・W・cope(考案)Richard W. Cope / ハリルド
ドアンドサンズ・メーカーズ HARRILD & SONS MAKERS

製作年：1820年頃考案

製作国：イギリス

1,600×900×2,100

アルビオンプレスは、copeによって考案された印刷機である。しかし、その後多くの印刷機メーカーから出され、バラエティ豊富な印刷機のひとつ。このアルビオンプレスはハリルドによってつくられたものである。アルビオンの特徴は、小さく扱いやすいことにあるが、本機はそのなかでは大型なものであろう。アルビオンとは、元々は白い丘という意味で、ドーバー海峡から見たイングランドの絶壁が白いことから、イングランドの古名を指す。その命名には、copeのイギリス人としての意地と誇りを感じることができる。